

コピーライティング応用

プログラム概要	：	コピーライティングによる産業振興・地域振興への貢献
実習先	：	新潟県燕市 公益社団法人つばめいと様との連携で、つばめ産業協創スクエア (新潟県燕市宮町5-8)を拠点に活動
人数	：	10名
学部学科	：	日本文学文化学科、環境システム学科、データサイエンス学科、 経済学科、経営学科、数理工学科
実習期間	：	令和5年9月4日～9月13日
本学担当教員	：	梅田大輔(教養教育リサーチセンター客員講師)

夏の新潟・燕で取材・ライティング合宿を実施

コピーライティング力・伝える力の「もと」となる取材力・聴く力・情報収集力のトレーニングのため、リアルな社会課題に貢献することを目指すため、新潟県・燕市での合宿を行った。学科がバラバラな10人で、地域のために、クリエイティブに活動している方たちや工場で働く方たちに取材をし、それをもとにさまざまな言語化・情報編集の活動を行った。

<今回の制作物>

- ・冊子(48ページ)・コンセプト動画(2分)・ビジュアルポスター
- ※取材・ライティングだけでなく、撮影、レイアウト、映像編集もすべて自分たちで行う

怒涛の10日間の記録 (経営学科3年 須永葵、環境システム学科3年 高畑朋果)

9/4 [1日目]

スクエア着
オリエンテーション
生活準備
定例ミーティング(20:00～)…冊子コンセプト

9/5 [2日目]

定例ミーティング(8:50～)…1日のスケジュール確認
エディトリアル講座(Zoom)
(編集・ライター:根本さん/アートディレクター:小路山さん)
取材(宗村さん、島田さん)/個人作業
定例ミーティング(20:00～)…冊子コンセプト、企画概要決定

9/6 [3日目]

定例ミーティング(8:50～)…1日のスケジュール確認
取材(長谷川さん、内山さん、佐藤さん)/個人作業
定例ミーティング(20:00～)…冊子コンセプト、スケジュール決定

9/7 [4日目]

定例ミーティング(8:50～)…1日のスケジュール確認
取材(アンさん、石井さん)/個人作業
定例ミーティング(20:00～)…冊子レイアウト決定、映像コンセプトについて

9/8 [5日目]

定例ミーティング(8:50～)1日のスケジュール確認
取材(斉藤さん、河面さん、阿竹さん)/個人作業
定例ミーティング(20:00～)…スケジュール確認(冊子、映像)



9/9〔6日目〕

定例ミーティング（8：50～）… 1日のスケジュール確認
制作活動：各自担当ページのデザイン、素材撮影、イラスト制作
定例ミーティング（20：00～）… 冊子導入メッセージについて

9/10〔7日目〕

定例ミーティング（8：50～）… 1日のスケジュール確認
やひこ浴衣でまち歩き／制作活動
定例ミーティング（20：00～）… 導入メッセージ、タイトル

9/11〔8日目〕

定例ミーティング（8：50～）… 1日のスケジュール確認
体を動かす時間（燕市体育センター）
／制作活動：担当ページの仕上げ、各自役割
定例ミーティング（20：00～）… 導入メッセージ、コピー

9/12〔9日目〕

制作活動：担当ページの仕上げ、各自役割
ポスター出力
定例ミーティング（20：00～）… 全体確認、調整

9/13〔10日目〕

発表準備、成果発表会、懇親会

○生活面についての振り返り

個人作業と全体作業どちらも並行作業で進め、取りこぼしのないようにスケジュール管理を徹底した。
コピーライティング基礎で夜型の生活になっていた反省を生かし、早寝早起きを心がけ、定例ミーティングを朝と夜の2回設けた。
ミーティングは夜中まで長引くことが多かったが、集中力が上がり定例ミーティングの必要性を感じた。
そんなハードスケジュールの中でも時間を見つけ、燕を満喫することができた。前回来た時よりも燕の良さを知った。夕ご飯は献立を決め、オンラインスーパーや自転車で買い出しをして作っていた。終盤にかけては、ご飯をつくる時間も惜しかったため、各自簡単に食べられるものを用意したり、一緒に出前を頼んだりした。ハードなスケジュールで心が折れかける場面も多々あったが、10人で協力してなんとか完成させることができた。

○身についた力

取材面では場の雰囲気良くし、リラックスした状態で取材を行う力、制作面では1人で抱え込まずに周りに頼る力が身についた。他愛もない会話から取材を始めることにより、お互いの緊張がほぐれ、より聞きたいことを聞き出すことができた。私は雑誌を読んだことがほとんどないまま雑誌編集担当になってしまったが、自分がわからないことは周りのメンバーに助けをもらいながら進めることができた。周りのメンバーの優しさや温かさをととても感じ、あらためて7コピは素敵な場所だと思った。（大矢朱夏・経済学科3年）／今回身についた力は、最後まで諦めない粘り強さ。短い時間で、時間を言い訳にしないクオリティを守る、逃げない心意気。会議などでは意見が食い違っても、オフの時はメリハリを付けて楽しくやる切り替え。（布施凌太郎・日本文学文化学科3年）



基礎のときに学んだ知識、培ったインタビュー経験からスムーズに取材、文字起こし、原稿制作に取り掛かることができました。基礎では不十分であった細かな部分まで気をつけて行動することができ、満足のいく学習だった。また今回は学生自らが能動的に動くことを前提とした学習が多く、自主性が身についたと感じた。さまざまな学科から学生が参加しており、貴重な4年間の大学生活でこの活動に参加していなければ会うことなかったであろう人と知り合うことができた良い機会でもあった。(斉藤奨・数理工学科3年)／伝えるための言葉に向き合う力、集団で成果物を作るための立ち回り方が身についた。過密なスケジュールの中、各々のこだわりを尊重し、得手不得手を補い合うことは慣れ親しんだメンバーでも想像以上に難しかった。10日間でこれらの力をつけるため意識するようになった点は2つ。1つはコピーを考える時、一度頭の中にゼミのメンバーや講師の反応を思い浮かべること。このことからより俯瞰した視点のコピーを考える力がついた。もう1つは話し合う際、自己開示する大切さを理解したこと。自分の意見が7割の完成度でも一度メンバーに開示する。相手から見たとき、どの程度作業が進んでいるか把握できるし、場合によっては力を貸してくれることもあるためだ。(土屋好・経営学科3年)／助け合う力。みんな自分のことだけじゃなく、他の人の原稿でも自分事のように真剣に向き合って一緒に考えてくれた。それに救われたし、自分も手伝えることは何かないかと声をかけ、助け合いながら課題に取り組んだ。またインタビューを進める力も身についた。初めて自分一人が主体のインタビューをして、未熟なところばかりだったがいい経験になった。(保立千宙・日本文学文化学科3年)／焦らず、慌てず取材できるようになった。2月の合宿で取材したときは緊張で上がってしまい、何度も詰まってしまった。頭が真っ白になり相手の言葉も右から左で理解できず、的確に質問できず…とにかく焦っていた記憶がある。今回の合宿では初めて一人で取材を行うため、自分でなんとかする覚悟、会話を楽しむ気持ちで臨んだ。積極的に笑って、理解に不安があったら思い切って聞いてしまう。このやり方で進めたら取材中も頭がぐるぐる回転して、最後まで落ち着いて質問をすることができた。梅田先生に「土浦が取材うまくなってる」と言われたのが、とても嬉しかったです！(土浦由貴・経営学科3年)／妥協せずにやり切る力。10日間で雑誌を完成させなくてはならない不安と、取材者の想いを的確に伝えるために細部までこだわりたいという責任感があり、何度もミーティングを重ねた。結果当初のスケジュール通りとはいかなかったが、小さな意見でもお互い妥協せずに発信し合えたことで、全員が納得する制作物になったと思う。この経験はチームとしても個人としても成長できた。(高畑朋果・環境システム学科3年)

これで7コピの活動は以上です。基礎では個人作業が多かったのですが、応用ではチームとしての活動が増え、チーム力がより一層求められました。つばめいと若林さん、深海さん、インタビューに協力して下さった方々、燕で出会った方々、皆様のお陰でかけがえのない経験ができました。心より感謝いたします。7コピでまたいつか燕に訪れます！(高畑、須永)

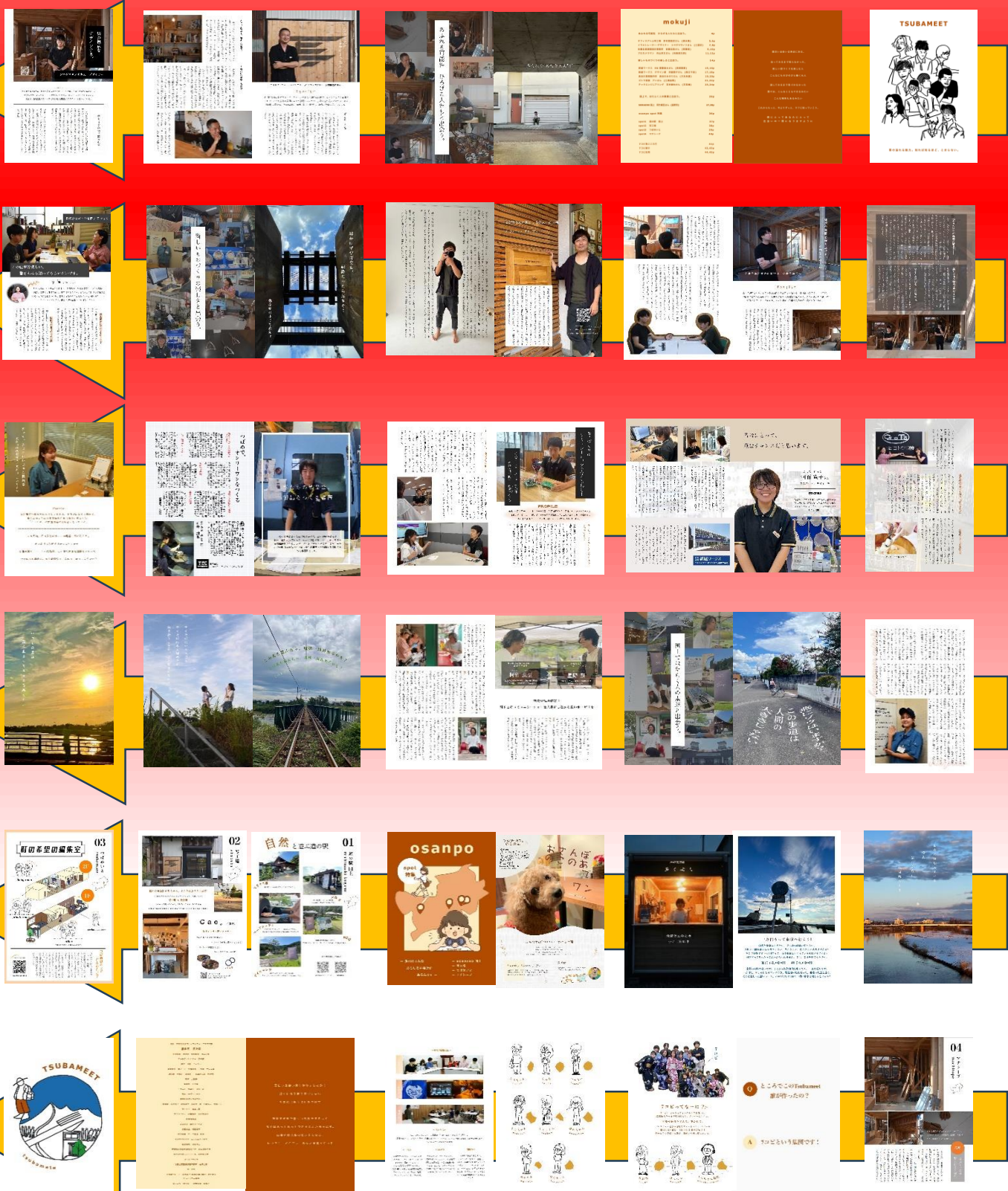


雑誌『TSUBAMEET』（48ページ・右開き）

Target：燕の若い世代

Purpose：燕に隠れている新しい働き方を知る。

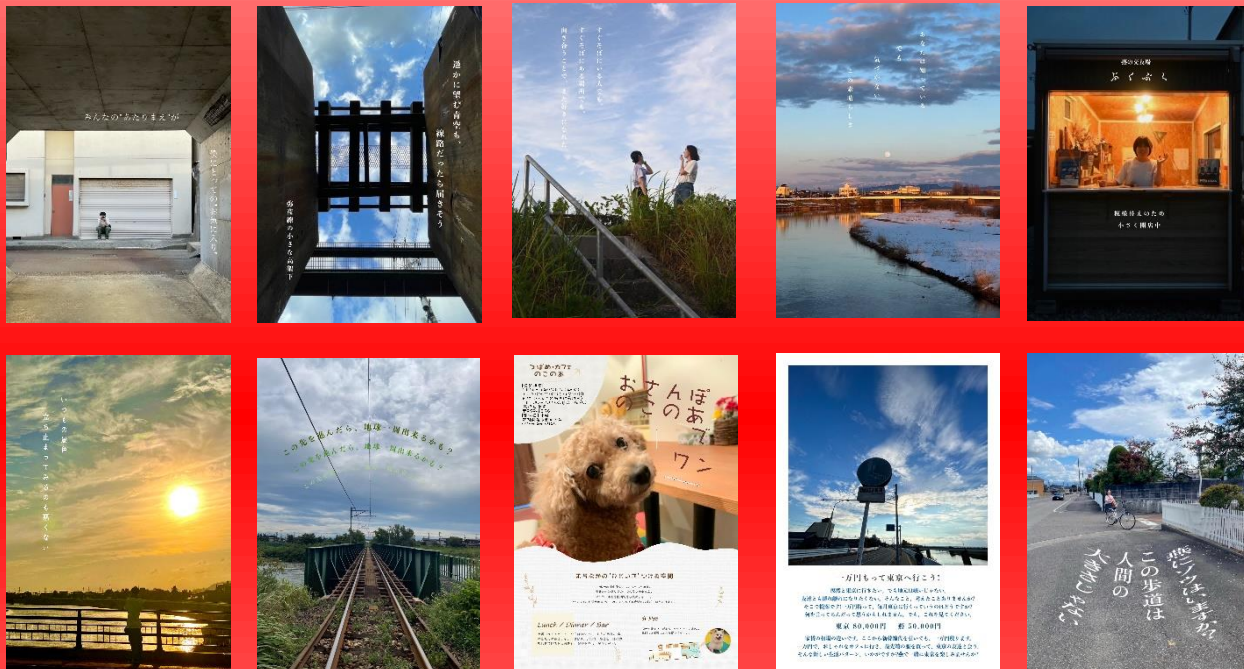
自分以外に活躍している若い世代を知る。



世界の幸せをカタチにする。

ポスター（10点）

→好きな燕の写真にコピーを添えて、ポスターに。



燕の魅力を伝える動画（2分）

→各々で撮ってきた写真や動画を一つの映像に。



動画はこちらから↑

〔講師より〕

「この夏、つばめ産業協創スクエアが、まちの希望の編集室となる」。そんなあり方を目指して、10人のメンバーが一つの編集部となる活動を企画した。レイアウトや映像編集まで行って冊子や動画を制作するという無謀なゴール設定をしたが、それぞれが収集した人や企業、街の膨大な情報を持ち寄り、対話しながら冊子や動画のコンセプトを立てて、ツールも自分たちで見つながら情報を編集・デザインしていくことができた。よくやり抜いたと思う。まだよりよくできる編集部メンバーだと思う。コンセプトの大事さに気づいてもらえたら嬉しい。（講師・コピーライター 梅田大輔）

〔受け入れ先より〕

冬以来の皆さんに会えた瞬間、何よりもまず心から嬉しかったです。そして「今回はどんなものを見せてくれるんだろう？」と期待する気持ちがうまれ、最後にはその期待をなんとなく超えてきてくれて、本当に驚きました。作業をする時は集中し、楽しむときはめいっぱい楽しむというメリハリのつけ方には尊敬しました。7コピーというグループもそれを構成する各個人も評価に値する活動をしました。「まちの希望の編集室」で、皆さんがまた来てくれる日を楽しみに待っています。（公益社団法人つばめいと 若林悦子）

世界の幸せをカタチにする。